

高度な監視映像システムによるセキュリティインフラ事業への進出 ～クラウドと映像データの活用でより安心・安全な社会の実現に貢献～

- 三井不動産株式会社（所在：東京都中央区 代表取締役社長 菰田正信、以下「三井不動産」）は、高画質な映像データ分析を低コストで行うことが可能な監視カメラ、および監視システムを特徴とする、株式会社クリューシステムズ（東京都千代田区、代表取締役社長 平山勝彦、以下「クリューシステムズ」）にこの度出資するとともに、社員を派遣し、映像データの活用事業へ新規参入することを決定いたしました。三井不動産はこれにより、より安心・安全な社会を実現する新たなインフラ構築に貢献してまいります。
- クリューシステムズは、同社の開発したクラウド技術を利用する高画質なデジタル映像データの管理を得意としており、独自の映像クラウド技術による映像監視ソリューション「SeeIT（シーイット）」はすでに鉄道の踏切監視等で採用されています。「SeeIT」は複数拠点や遠隔地における大容量の映像データをクラウド上で統合的に扱うことを可能とするもので、セキュリティ関係の映像データ分析ソフト（ナンバープレート認識、エリア侵入検知、異常検知）を従来の仕組みと比較して極めて低コストで利用できるため、これまで限られた範囲でしか採用されなかった高度な監視映像システムが、社会全体に急速に普及することが期待されます。今後、三井不動産とクリューシステムズは、ソフト開発会社との連携を進め、映像分析ソフトのラインナップの更なる充実を図り、「SeeIT」を映像データを分析する際の「映像プラットフォーム」としていくことを計画しております。
- 三井不動産は、当製品の利便性の高さからすでに当社で管理するオフィスビル、商業施設、マンション、物流施設等の監視システムにおいて「SeeIT」の採用を開始しております。今後クラウドを利用した映像分析は、医療・介護分野などあらゆる分野での映像活用に貢献できる可能性を持っていることから、クリューシステムズと共にこの機器・ソリューションの販売を強化するとともに、他社の監視カメラや映像分析ソフトに対してもこの独自技術をライセンス提供することで、システム全体のプラットフォーム化をさらに推進していきます。

以 上

【映像データの現状とクリューシステムズの製品・サービス】

監視映像データの現状

- ・ 一般的な監視カメラの多くは低画質映像（アナログ） ➡ 映像分析が難しい
- ・ 数は少ないが高画質映像分析システムは存在（空港等で導入） ➡ 高額な専用システム



クリューシステムズの製品・サービス

- ・ 「高画質」な映像を「クラウド」を活用することにより「低コスト」で分析を可能に
- ・ カメラが自主的に映像下の状態変化を「発見」し、「判断」し、「発報」できる
- ・ セキュリティレベル向上による安心・安全な社会を実現する社会インフラの構築

〈添付資料〉

1. 株式会社クリューシステムズ会社概要
2. クリューシステムズのクラウド型映像監視ソリューション「SeeIT」製品・サービス詳細

〈添付資料 1〉株式会社クリューシステムズ会社概要

社名	株式会社 クリューシステムズ
住所	〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビルディング 5F LIAISON-STAGE 霞が関
設立	2008 年 1 月 25 日
資本金	1 億 3 千万円
代表取締役社長	平山 勝彦 1957 年生まれ。57 歳。岩手県出身。岩手大学工学部卒業。 アルプス電気でカーナビの開発に携わった後、シリコンバレーで起業し、大手 IT 企業のビデオ配信システム設計等を手がける。
事業内容等	2009 年より世界初の業務用動画テレマティクスサービスの本格展開を開始する。 2011 年からは鉄道会社向けにクラウド型モバイル踏切監視サービスの提供をスタート。 2013 年、「LIAISON-STAGE 霞が関」にオフィスを移転し、三井不動産と共同で大型ビルや商業施設などにおけるクラウド型映像監視ソリューション「SeeIT」の開発・販売強化に取り組んでいる。

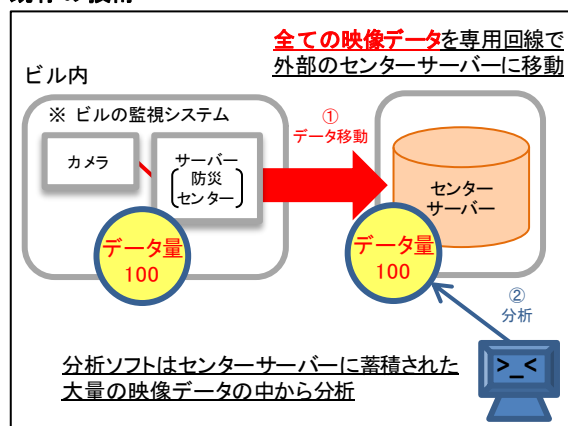
<添付資料 2> クリューシステムズのクラウド型映像監視ソリューション「SeeIT」の詳細

クリューシステムズの製品の強みは、高画質映像データをネット上で簡単に扱うことを可能にし、かつその通信コストを大幅に削減できるクラウド技術です。このクラウド技術を用いた機器および閲覧・分析サービスが、クリューシステムズのクラウド型映像監視ソリューション「SeeIT」です。（以下、「SeeIT」）。

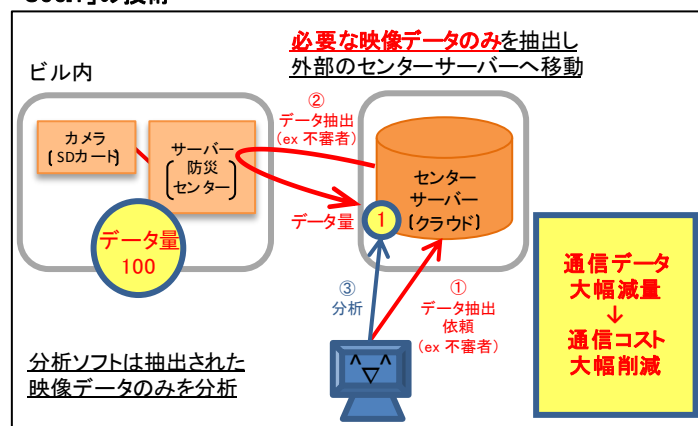
【「SeeIT」がコスト削減できる理由】

「SeeIT」は、既存の技術と比較し（以下比較図参考）、監視映像データを高画質、高精細のままカメラ内蔵のSDカードや防災センターのサーバーなど複数の場所に分散して保存し、必要に応じてクラウド上のセンターサーバーに送信されるため、無駄なデータ移動を防ぎ通信コストを抑えることができます。三井不動産では、管理するオフィスビル、商業施設、マンション、物流施設等における監視カメラで「SeeIT」の導入を進めており、他社でもすでに鉄道の踏切など交通インフラ監視にて採用されています。また、カメラ本体がアナログ、デジタル双方の同時出力に対応している大規模施設向け「SeeIT」対応型監視カメラシステムを共同で開発し、共同特許を申請しております。この技術により既設の監視システムを使用したままクラウド環境に接続して管理することができるため、既存施設各所での導入が進んでいます。

既存の技術



「SeeIT」の技術



【「SeeIT」が映像プラットフォームを構築】

三井不動産およびクリューシステムズは、「SeeIT」を、今後活用の範囲が大幅に広がっていくであろう映像データ活用分野の、新たな映像プラットフォームと位置付けています。「SeeIT」対応型カメラは、ライセンスを提供することによりクリューシステムズのみならず他社でも製造可能とし、また映像分析ソフトについても各ソフト開発会社が製作可能とすることで、それぞれの製造コストの削減、利用者の増加につながり、今後5年で普及率の大幅拡大を見込んでいます。

